

2006年度 東京大学 学術俯瞰講義  
社会の形成—人間はいかに共生してきたか—

# 権力と自由の生態について

第3回 政治権力と参加  
～民主主義をめぐるって

佐々木 毅

本講義資料内の著作物の再使用、二次的著作物の創作などについては、  
著作権者より直接承諾を得る必要があります。

# 政治権力と参加～民主主義をめぐって

1. 何故、政治に参加するのか
2. 民主主義の制度化について
3. 参加と選択

# 1. なぜ、政治に参加するのか

1. 正しい統治の実現のために
  - 正しい統治は賢者や卓越した人物に委ねるべきではないか → アリストクラシーへ
2. 自らの権利や利益を守るために
  - 自らの権利や利益を守ると称して他人の権利や利益を侵すのではないか
  - 本当に何が自らの利益なのかが分かっているのか
3. 諸課題への視野を広げ、人間としてより向上するために
  - 視野が広がってから参加を求めるべきで、これでは本末転倒ではないか

# 2.1 都市国家と直接民主主義

- 貧者の支配と権力の限界の曖昧さ
- 領域の狭さ
- デマゴグの台頭

## 2.2 近代国家と間接民主主義

- 広い領域への適用
- 代表制の導入
- 基本的人権と権力の限界

## 2.3 「多数者の専制」

- 権利を抑圧するのは何も王や貴族だけではない
- 多数者の解体
- 権力の抑制均衡

## 2.4 間接民主制の制度化

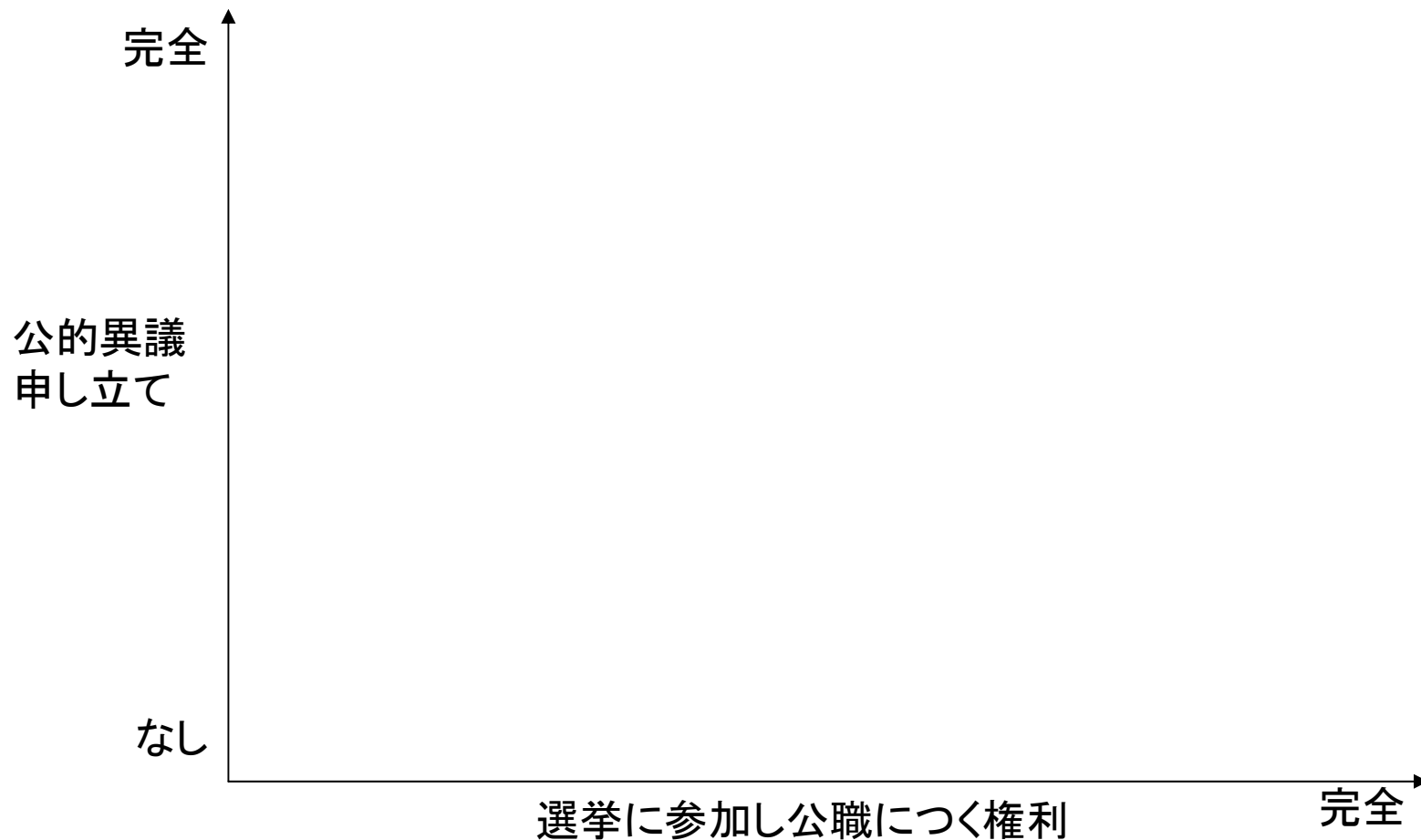
- 議会制
  - 国民は国会議員のみを選ぶ
  - 議会の多数派が政権＝内閣を担当する仕組み
  - 柔軟な政権運営（解散、選挙、政権交代）のプラス、マイナス
- 大統領制
  - 国民は議員と大統領を選ぶ
  - 双方が憲法に定められた権限を行使し、抑制均衡関係に立つ
  - 任期の固定化と安定化のプラス、マイナス
- さまざまな中間形態について

## 3.1 選択のない参加は意味があるのか

- 選択がなければ参加は権力者に拍手喝采をおくるだけの意味しかない
- 選択の余地がなければ民意の価値はほとんどなくなる
- 権力者の権威付けとしての参加でしかない
- 民主主義からポリアーキーへ



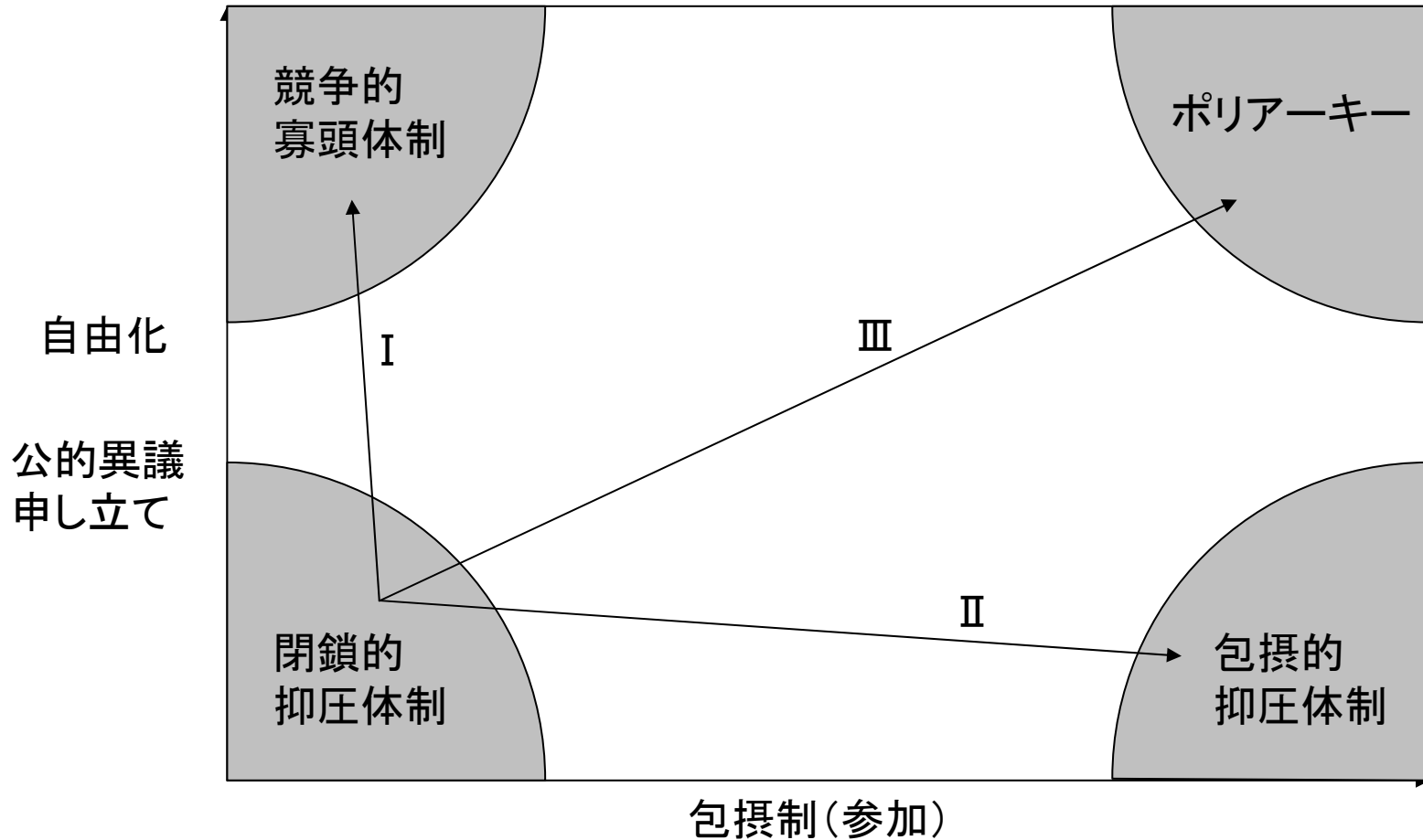
# 民主化の二つの理論的次元 (ロバート・ダール)



出典: Dahl, R. A., *Polyarchy*, 1971.

2006/4/27

# 自由化、包摂化、民主化



出典: Dahl, R. A., *Polyarchy*, 1971.

2006/4/27

# 一党独裁体制

- 一党以外は(事実上)禁止
- 一つの政党が全てを代表している
- 選択の余地がないが、投票権は与えられている

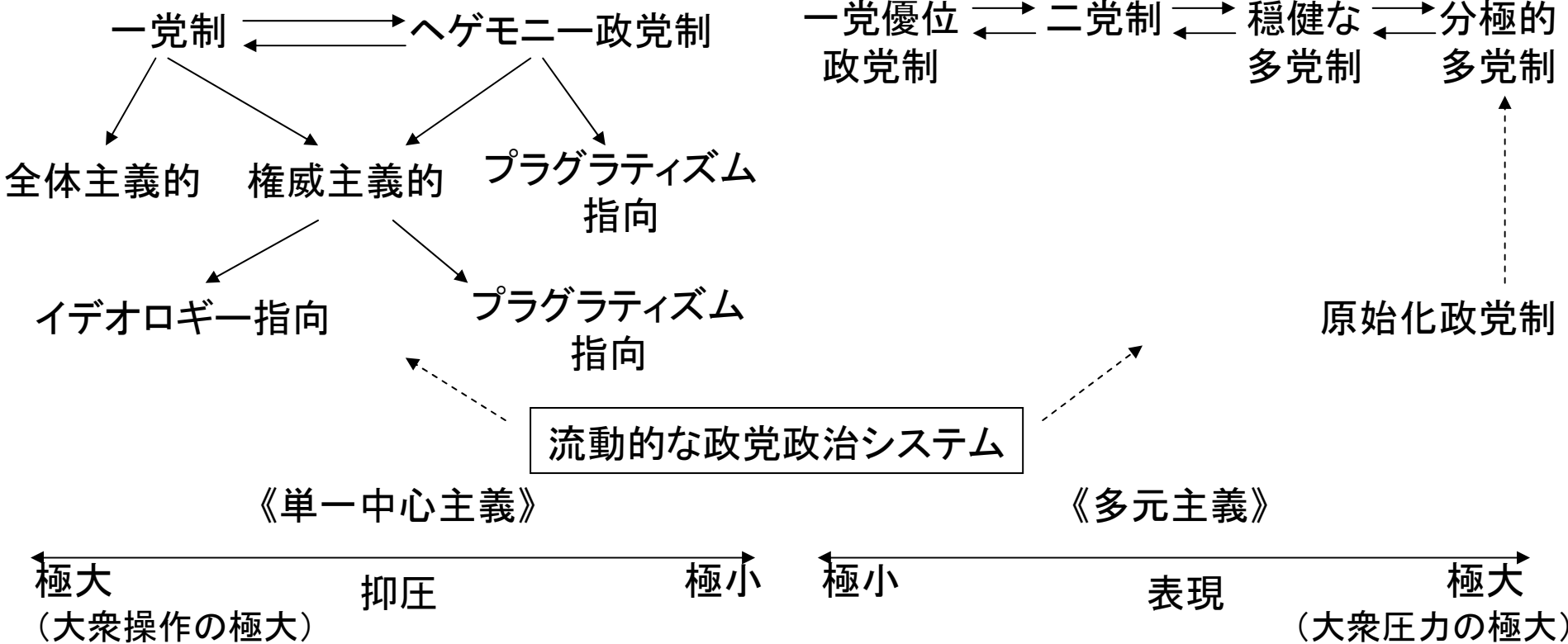
# 複数政党制

- 選択の余地がある政党システム
- 政権参加可能性に基づく分類
  - 一党優位政党制
  - 二党制
  - 多党制(穏健型、分極型)

# 政党政治システムのタイポロジー (ジョバンニ・サルトーリ)

政党国家システム  
(非競争的)

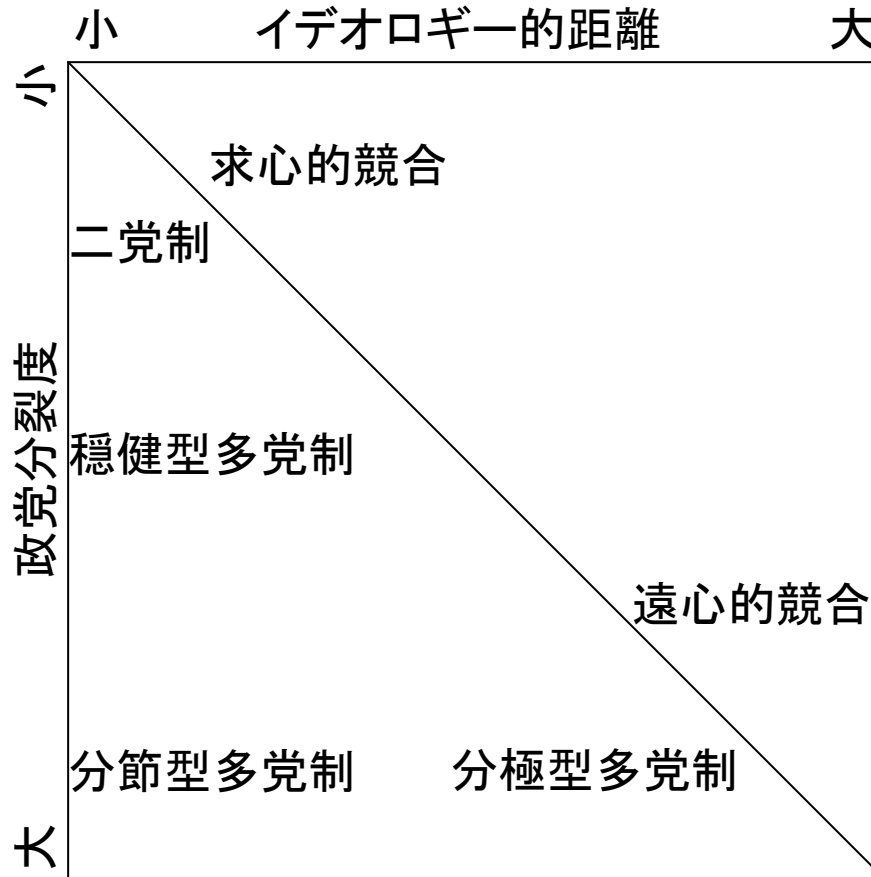
政党システム  
(競争的)



出典: Sartori, G., *Parties and Party Systems*, 1976.

2006/4/27

# 単純化したモデル



出典: Sartori, G., *Parties and Party Systems*, 1976.

2006/4/27